



報道関係各位

2019年1月30日  
公益社団法人企業情報化協会

—NEWS RELEASE—

## 「Super SE 100 人衆(IT 賞優秀個人表彰)」第5期7名決定

公益社団法人企業情報化協会(通称:IT協会)では、平成30年度「第36回IT賞」受賞企業の中から特に顕著な活躍・貢献したと思われる個人7名を選出し、このほど第5期の「Super SE100人衆」として表彰する。

IT協会では平成26年度より毎年5名から10名程度をめどにSuper SEを選出しており、最終的には100名を目指す。

今年度Super SE 100人衆として表彰される7名は以下の通り。また表彰式を2019年2月6日に開催される「第34回IT戦略総合大会」会期内にて行う。

| 会社名             | 氏名    |
|-----------------|-------|
| ヤンマー株式会社        | 佐藤 祐二 |
| SOMPO システムズ株式会社 | 金子 幸太 |
| 株式会社セブン銀行       | 酒井 義男 |
| 株式会社ベネッセインフォシエル | 金田 寿則 |
| 株式会社日本総合研究所     | 森 敦夫  |
| エーザイ株式会社        | 秋山 嘉保 |
| カブドットコム証券株式会社   | 小崎 敬介 |

(順不同・敬称略)

### Super SE100 人衆とは

- IT 賞受賞企業からの人材候補者の推薦をベースに選定。人材候補は自社社員に限らず IT 推進のパートナーからも選出。ただし、事業や企業の経営者の地位・役割ではなく、IT 関連の実務家として卓越している人材を推薦するという視点から選定した。
- Super SE 選出には毎年5名～10名をめどに行い、対象者の数を増やしていくことを目指し、最終的には100名を目指す。なおある程度の蓄積が得られたら、IT協会において「IT上質人材像」の具体化のための研究に結び付けていく。
- また受賞者の推薦理由をIT活動領域とタイプ別のマトリックス(推薦シート)の上にプロットし、どのような行動様式や思考様式を持った人材がどのような業績をあげるかという関係性を分析する。これによって、現実的かつ経験的に辿ることができる卓越人材のスキル特性を描写することを最終目標とする。

## Super SE100 人衆選考の視点

- 1) ビジネスやマネジメントに関する独自の視点やアイデアの発揮
- 2) 企業価値、商品価値向上に資する IT 活用アイデアの提供と具現化
- 3) 顧客もしくは自社における新たなビジネス創出への関与と貢献
- 4) ユーザの業務に対する本質的な理解
- 5) 安全・安心・コンプライアンスの遵守への貢献
- 6) プロジェクトマネジメントスキルおよびリーダーシップ
- 7) IT の動向や活用に関する理論・技術への見識と適用

※人材像を理念型として描く時には往々にして期待される全ての特性や能力を備えた「スーパーマン」を求めるような議論になりがちであるが、ここでは上に述べた七つの視点の全てを兼ね備えた「幻の人材」を探し求めるのではなく、七つの視点(七芸)の中の一芸・二芸・三芸に秀でた実在する人材を探し、そこから理念型としての理想人材を想定することを考えた。

## IT 賞とは



公益社団法人企業情報化協会では、昭和 58 年 3 月に設定した情報化優秀企業・自治体・機関・事業所等表彰制度に則り、わが国の産業界において、“IT を活用した経営革新”に顕著な努力を払い優れた成果をあげたと認めうる企業・機関・事業所・部門あるいは個人に対して IT 賞を授与している。このたび、平成 29 年度 IT 賞審査委員会(委員長: 斎藤信男 慶應義塾大学名誉教授)において、厳正な審議のもと、25 社 18 件の受賞を決定した。

## 公益社団法人企業情報化協会 (IT 協会) について

名 称 : 公益社団法人企業情報化協会 (通称: IT 協会)  
会 長 : 小縣 方樹 (東日本旅客鉄道株式会社 取締役副会長)  
設 立 : 1981 年 7 月 16 日  
会員数 : 200 社  
所在地 : 〒105-0011 東京都港区芝公園 3-1-22 日本能率協会ビル 3 階  
電 話 : 03-3434-6677  
URL: [www.jiit.or.jp](http://www.jiit.or.jp)

## 平成 30 度IT賞「Super SE 100 人衆」受賞者と推薦理由

| 受賞者名(敬称略)  | 会社名・所属         |
|--|----------------|
| 佐藤 祐二  | ヤンマー株式会社       |
| <p><b>【推薦理由】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SMARTASSISTによる農機のIoT化推進を担当。</li> <li>・農機事業部門と情報システム部門を兼任し、双方の視点でサービスを創出する役割。</li> <li>・強化市場であるアジアを中心に、エンドユーザーを直接訪問して現場課題を把握するなど、顧客視点でサービス・機能強化を企画・提言できる。</li> <li>・例えば稼働時間センサーの活用による定期点検精度の向上や、モバイルアプリによる盗難防止・稼働状況管理制度向上など、利用者に喜ばれるサービスづくりに貢献した。</li> <li>・今後は情報分析力を鍛えて、SMARTASSIST以外の情報も含めたソリューション企画・実践ができるSEへ向けてチャレンジ中。</li> </ul>  |                |
| 金子 幸太  | SOMPOシステムズ株式会社 |
| <p><b>【推薦理由】</b></p> <p><b>【ITガバナンス強化プロジェクトの概要】</b><br/>         当該プロジェクトは、全社的なITガバナンスを強化することを目的に、COBIT5・CMMI・ITILといった国際標準フレームワークを活用し、経営から開発・基盤・運用における全領域の改善・改革を行う、経営を含む全社・全員参加による2年6か月に及ぶ大型プロジェクトである。</p> <p><b>【対象者の役割】</b><br/>         対象者は当該プロジェクトの統括PMOおよびCMMI施策の主メンバーとして参画。</p> <p><b>【対象者の実績と成果】</b><br/>         当該プロジェクト内の国際規格化(COBIT・CMMI・ITIL)を統括・統制するためのプログラムマネジメントをPMOとして推進し、経営から開発・基盤・運用に至る全領域の組織に対して、本人が有する高度な技術とマネジメント力を如何なく発揮して、真に効率的で無駄のないプロセスを展開した。これら国際規格のフレームワークの適用により、各種の指標が全社的に活用できたことで、意志決定などの迅速かつ適正化による「ファクトベースの経営」が実現できた。</p> |                |
| 酒井 義男  | 株式会社セブン銀行      |
| <p><b>【推薦理由】</b></p> <p>システム化(プロジェクト)の内容とこれに関わる役割・実績と成果</p> <p><b>【プロジェクト】</b> 企業から個人へ口座を介さず、ATMとコンビニレジ(POSレジ)を活用して現金を受け渡す「現金受取サービス」開発プロジェクト</p> <p><b>【役割】</b> 開発プロジェクトリーダー</p> <p><b>【成果】</b> ①仕組みを変える<br/>         従来からの「信頼性重視」開発プラットフォーム(システム基盤)を見直し、クラウドベースでの 開発を推進。システム特性に<br/>         応じてIaaS/SaaSを使い分け、信頼性確保と拡張性を両立</p>   |                |

## ②開発手法を変える

プロジェクト運用効率化のため開発管理方式を見直し推進

(主な取組) 開発作業内製化/コミュニケーション効率化/過剰品質見直し

### 【実績】

- ①今後のセブン銀行ATMサービス拡大へ寄与する現金受取サービスの実現
- ②新サービス開発コストを従来比3割削減可能とする開発プラットフォーム構築
- ③新しい取組みに挑戦する社内文化の醸成

金田 寿則

株式会社ベネッセインフォシエル

### 【推薦理由】

システム化(プロジェクト)の内容とこれに関わる役割・実績と成果

#### 1.役割

■本システムの要件策定、システム利用環境構築(拠点Wi-Fi環境構築、パソコン、スマホ等端末調達)、社内研修、データ移行、導入前支援、導入後フォローは当社が担当。

一方BSH※1は、上記要件を元に提案からプロトタイプ開発・本格開発・ITインフラ構築・導入支援(約1.5年)、カットオーバー後のシステム運用・保守(約1.5年)までの全工程(計約3年)をワンストップで担当した。

※1 BSHはベネッセグループの一員で、グループ各社のシステム管理・運用・ITインフラサービス等を担っている。

■プロジェクト発足当初、BSHにおいて介護現場のシステム開発は初めての試みではあったが、サードベンダーに頼ることなく同社に開発を委託したのは、当社が20年以上もの間に培ってきたノウハウや知見をはじめ、各種施策をシステムに組み込んでいくと共に、全ての現場スタッフと関連する多くの間接部門が利用する全社レベルの戦略的基幹システムという位置付けであり、事業運営・継続のコアを担うと言っても過言ではないシステムの開発はグループ一体となって取り組むべきとの当社意向があったため。

■その中で推薦者は、本プロジェクトのスタートアップから現在に至るまで始終従事しており、開発の上流工程では、システムの良し悪しを大きく左右する根幹部分のシステムアーキテクチャとDBの調査・設計をリーダーとして担当した。

#### 2.実績と成果

■BSHにとっても推薦者にとっても初の開発領域であり、大規模・短納期・高信頼性が求められる(システム障害が時にご入居者の生命にかかわるリスクもあり得る)難易度の高い要件であったにもかかわらず、プロジェクトの立ち上げから導入までを、QCDいずれもクリアさせて成功裡に導いた。

その中で推薦者が寄与した主な成功要因は以下の通り。

■プロトタイプ開発での現場スタッフ交えたワークショップを通し、介護現場の実態を直接肌で感じ取ると共に、本格開発では、そこで培った現場感覚に加え、先入観やシステム屋都合に捉われない常に物事の本質を追求することで、仕様齟齬や手戻りを大幅に低減させた。

■UI/UXでは、現場で働くスタッフのコンピュータリテラシの高低を問わず、幅広いユーザー層に受け入れてもらうため、HTML5やJavaScript、フレームワーク等を積極採用し、親和性・操作性の高いWebアプリケーションを実現した。

■限られた予算で高い費用対効果を実現させるため、DBにMySQLを採用。各種チューニングを施し最適化することで安定運用を担保した。

■カットオーバー後約2年が経過し全316拠点に導入されている現在、端末約6,000台、ユーザ約15,000名という広範で大規模な利用環境のもと、各種SLA を遵守しながら24時間365日安定稼働していることは、推薦者が担当したアーキテクチャとDB設計の妥当性を実証している。

■「単なる既存業務のIT化ではなく、2~3歩先を見据えたあるべき姿の実現」という軸をぶらすことなくプロジェクトを支え推進してきた実績・成果は、単なる開発委託先の一SEという枠を超え、ITを高度に利活用した現場と経営との橋渡し役として、

洞察力・分析力・設計力・提案力・実現力を全方位でいかに発揮した賜物である。

森 敦夫

株式会社日本総合研究所

【推薦理由】

システム化(プロジェクト)の内容とこれに関わる役割・実績と成果

平成30年度ITマネジメント賞を受賞した「SMBC信託銀行によるシティバンク銀行リテール事業取得に伴うシステム統合プロジェクト」において、SMBC信託銀行側開発の約8割を担当した(株)日本総合研究所にて、営業店端末システム及び情報系システムの開発チームのリーダーとして参画、以下の通り高いSE力を発揮。

- ①営業店端末システムの担当リーダーとして、顧客本位の姿勢と創意工夫で、高いユーザービリティを実現、端末・PC上で提供する多岐に亘る関連システム(勘定系、印鑑照合、外国送金、相場・市場接続(P-Deal)、顧客情報(CRM)等)とのシームレスなユーザーインターフェースを実現する、シングルサインオンやID・データ連携などを提案し実装。また、全面刷新した端末の操作研修の環境設定支援・レスポンス改善を行うと共に、システム利用に必要なIDの作成や管理方法の提案を行なうなどユーザーと緊密に連携。移行リハーサルと本番移行時にはユーザー視点にて課題解決やサポートに奮闘。
- ②情報系システムの担当リーダーとして、勘定系システムと後続の周辺系システムとを連携するデータHubの機能を実装すると共に、多通貨会計やコンプライアンス管理用データの提供など、各種業務ニーズに応じたソリューションを実現。
- ③担当システムのデータ移行においては、Citiからの数十テラバイトの大量データ(印影やサイン筆跡、DWHに保存されている過去の業務データ)の受領とデータ変換を、Oracle等に関する専門知識を活かして関係者との調整をリードし、全データの計画的かつ円滑なデータ受領を実現した。

秋山 嘉保

エーザイ株式会社

【推薦理由】

システム化(プロジェクト)の内容とこれに関わる役割・実績と成果

<役割>

受賞テーマ「先端AI・デジタル技術に対応したグローバルでの新たな価値創出に向け、約半世紀に渡り利用したレガシーシステムからの脱却」プロジェクトの全体PMO(Project Management Office)責任者として全体を牽引したこと

<実績と成果>

- ・経営層からグローバルでの経営情報基盤統合に向けた基幹系システムの統合が求められる一方、全社的にはメインフレームのハードウェア老朽化の課題を抱えていた。当社の将来のイノベーション創出に向けてデータの重要性はますます高まる中、メインフレームによって分断され旧態已然のデータ構造である現状から早期に脱却すべく、移行プランとして、メインフレームの廃止と段階的なシステム統合を進めるアプローチで進めたこと。
- ・プロジェクトの旗振り役として、利用部門と一体となったプロジェクト体制を組み、検討を加速したこと。また、運営上の工夫は、メインフレームのシステムを分解し、部門単位で遂行できるものは部門単位のプロジェクト、部門横断型はステアリングコミッティを組織したプロジェクトを初期段階に構築できたこと。
- ・当社の中期経営計画における戦略テーマの1つで極めて難易度の高い本プロジェクトの推進にあたり、規模が大きく、かつステークホルダーズも多岐に渡り、多面的な検討を要する中、2015年4月のプロジェクト立ち上げから計画に沿って2018年6月末までの短期間で一気にメインフレーム廃止を実現した点が成果であり、全社的にも極めて貢献度が高いこと。

小崎 敬介

カブドットコム証券株式会社

【推薦理由】

1.プロジェクトの内容

「ITで金融・証券業界を牽引する先進企業」を目指し、「自律型組織への変革」ならびに「IT分野の構造改革」の2テーマを軸

に推進。「IT分野の構造改革」では第一段階で既存の組織・ルール・開発・運用に関わる領域の見直しと対応案を提言。第二段階で提言内容の試行・検証を進めた。

## 2.役割

「IT分野の構造改革」に関わる担当メンバーとして、業務知識、開発経験、ならびにIT動向や活用に関する理論・技術への見識に基づき、提言内容の取り纏めと試行・検証を先頭に立って推進した。

## 3.実績・成果

アーキテクチャ分野ではMicroservicesの採用とそれを支える技術基盤の選定を実施。パブリッククラウドを基盤としたコンテナベースのアプリケーション構築。並びに、それらを活用したCI/CDパイプラインの整備である。

また、バックエンド側だけでなくフロントエンドとしてReactによるSPA(Single Page Application)の検討を進めた。

検証だけでなく、実案件にも適用。実際に品質面／効率面(生産性)と言う観点で改善することを確認できた。加えて、モダンな技術に触れることにより開発者のモチベーションが向上したことに言及しておく。

早く、安く、品質の高いシステムサービスが求められる中、『コスト増』や『開発長期化』が常態化し、対処療法では根治不可の状況下において、抜本改革への第一歩を踏み出せた成果は大きく、圧倒的な信頼感がある。

### ※本件に関するお問い合わせ先

公益社団法人 企業情報化協会(IT協会) IT 賞事務局 E-Mail:info@jiit.or.jp  
〒105-0011 東京都港区芝公園 3-1-22 日本能率協会ビル 3 階  
TEL 03-3434-6677 FAX 03-3459-1704

以上